

# 「つくる責任 つかう責任」の エシカル消費を促すアルミカップ

かつては、飲食店でビールやジュースなどのコールドリンクをテイクアウトでオーダーすると、たいてい紙やプラスチックのカップで提供されました。しかし最近はこのに加えてアルミカップも見かけるようになってきました。2019年、米国では環境への配慮から、国民的人気のアメフトボール優勝決定戦「スーパーボウル」のスタジアムで、アルミカップが採用されて話題となりました。

以降、アルミカップが環境にやさしいサステナブルな容器として広く認識されるようになり、スタジアムをはじめとする多くの場所で採用されています。

日本では、昨年より本格的にアルミカップの製造が始まり、使用後のカップの回収や、リサイクルまで含めた普及を目指してさまざまな取り組みが進んでいます。今回は、アルミカップの利用を積極的に進める2社にお話をうかがいました。



## 人々の協力を得て テーマパークで回収進む

昨年より、ある大型テーマパークでアルミカップの採用がスタートしました。採用理由は、アルミニウムのリサイクル率が高いことが注目されたからです。東洋製罐(株)は、パーク内で使用済みカップを集めてリサイクルしようという活動をしています。ここで回収されたアルミカップは、バックヤードで分別してリサイクルに回され、回収率は7割程度に達しています。このほか、音楽フェスでアルミカップをテスト導入した時には、基本的にワンウェイで使用されているアルミカップでビールのお代わりができるようにしたり、回収を促すために「回収ボックスに入れたらグッズをプレゼント」というキャンペーンも実施し、多くの人に協力してもらいました。こうしたアルミカップ普及の取り組みは始まったばかりですが、さらに社会への認知度を高めていくには、これから実証実験を積み重ねていく必要があると思います。

また、当社のアルミカップは製造段階で水を使用しない独自の成形方法(aTULC)をベースに開発しています。これは洗浄工程が必要ないため乾燥工程が大幅に削減されると同時に、洗浄工程での廃棄物



カップ上部に入目線があり持ちやすくなっている

東洋製罐(株)  
メタル技術開発部 飲料缶開発グループ  
副主査 田中 章太さん

ゼロという環境に配慮した製造方法です。カップの上部には段差の入目線を入れることで、持ちやすさと液体の注ぎやすさも考慮しました。素材はアルミ缶と同じアルミ合金を使用していますが、現在、回収してリサイクルする場合の分別や再資源化は各自治体に任されているので、将来的にはアルミ缶と同様にリサイクルされるよう働きかけています。環境意識の高まりに応じて、今後、多くの人々がアルミカップを選んでくれるようになると良いと思います。

## 優秀なエコ容器として もっとポピュラーな存在に

さいたまスーパーアリーナで毎年春と秋に開催される国内最大級のクラフトビールイベント「けやき広場ビール祭り」に出店している「うしとらブルワリー」が、昨年より3回連続してアルミカップを採用しています。使用後のアルミカップは「うしとらブルワリー」が回収して、これをアルテミラグループが引き取っています。過去2回は屋内開催で、専用回収ボックスの設置箇所が多かったため回収率は5割ありました。今年の春は屋外開催となり、店舗前でしか回収できなかったという事情もあり、回収率は前回を下回りました。

店ではビール購入時にアルミカップとプラスチックカップのどちらかを選べるようにしていますが、やはりアルミカップを選ぶ方はエコ意識が高いという傾向が見られるようです。今はアルミカップ自体が珍しいこともあり、記念グッズとして持ち帰る人が多いのが実情です。当社グループはアルミ缶の水平リサイクルの実績があり、このアルミカップは100%リサイクル材で作っています。今はまだ生産数が少なく、アルミカップの存在自体が世間あまり知られてい



アルテミラ(株)  
グループ安全環境部  
部長 小崎 直樹さん

世界で初めて  
100%リサイクル材  
を使用した  
アルミカップ



アルテミラ(株)  
営業部門 第四営業部  
アシスタントマネージャー 入江 彩香さん

ません。まずは、アルミカップを広く知ってもらうことが必要だと思います。そして、新たな資源を使用しなくても済む優秀なエコ容器として、多くの人に選ばれていくことを期待しています。